

(1) 開催概要

■目的

市内8地区で、民生委員・児童委員など福祉活動に取り組むみなさん、自治会・まちづくり推進組織など地域活動に取り組むみなさんを中心に地域の方々に参加をいただき、新しい地域福祉計画の協働の方向性等について地域のご意見として取りまとめていただき、現在抱えている課題や問題点、今後の取り組みについてグループワークを通じて意見交換を行いました。

■開催日時、会場

令和6年8月1日(木) 18時30分～ 瑞浪市保健センター3階 大会議室

■参加者 32名

■テーマ

参加者が5つのグループに分かれ、下記の3テーマについて話し合いました。

・孤立化防止について

～地域の中に孤立した人はいないか、そうした人が出ないようにどんな工夫ができるか～

・見守りにについて

～地域で人と人がつながる見守りや声掛けが出来ているか、今後広げるために出来ることはないか～

・地域の担い手の養成について

～町内会等の地域の担い手が無理なく運営できるための工夫、役員など担い手の負担を減らすことが出来るか～

●住民の孤立化防止について

【困っていること】

- 行政や社協・福祉委員・民生委員との情報連携が不足している。個人情報保護法により、皆の住所・電話番号などを知ることが難しい。行政から地域住民の状況把握を促される一方で、個人情報保護の理由で行政側からは住民情報を全く教えてもらえず、区長・民生委員・福祉委員・まちづくり等が独自の情報で動いている。
- 地域によって意識の格差があり、特にコロナ禍を経て、イベントなど地域の活動が少なくなっている現状もある。また自治会加入率も地域によって差があり、自治会未加入者は孤立しているかどうか分からないし、そもそも隣近所の付き合いを拒否している人、会費を払いたくない人もいる。
- 独居者の孤立化が懸念される。例えば高齢者をふれあいサロンに招待しても出たがらず、なかなか参加に繋がらない。一人で過ごす方が良い、集まりそのものに足が向かない、という人も多い。

【目指すべき姿】

- 区長・民生委員・福祉委員など地域関係者が連携し情報共有できると良い。正確な情報が必要。
- 地域の世代間での交流の活発化が望ましい。子どもたちが喜んで参加できるような地域行事を開催し、そこにいる大人が繋がっていけるとつながりの輪が広がりやすいのではないかと。一方で、まとめ役の負担も大きい。
- ふれあいいいききサロンをもっと活用する。そのためには、より多くの人にその存在や重要性を知ってもらうことと、またちょっと歩いて行けるところへのサロンの設置が望ましい。
- 自治会に加入せず近所付き合いを望まない人は、行政で対応してほしい。
- 大きな区になると人数も多いので、班単位で対応してはどうか。
- 地域での福祉団体との懇談会を頻繁に開催することで情報を共有しながら、様々な層や形での福祉情報提供を行うことで孤立化防止をしていってはどうか。

【住民主体でできること】

- 地域の福祉団体との懇談会を頻繁に開催することで、それぞれの情報を合わせて話をし課題を出して解決していく。
- 地域住民のなかでの組織、子ども会なども巻き込みながら進めていきたい。
- 役員の連帯、地域の組織を再度見直し強化していく。
- 男性が集まりにくいと、参加促進のための仲間づくりを推進してはどうか。
- 地域住民が交流できる行事の復活を図る。

●地域の見守り体制について

【困っていること】

- 近所で詐欺などの事案があった際、警察に聞いてもどういう経緯があったかの情報が開示されないため、住民に注意喚起をすることができない。
- 自治会の行事や会議、友人・身内の集まりなどが減少してしまっている。見守りどころか、自分達も高齢化していて人数が少なくなっていることが現状。
- 役員に予算をつけずほとんどをボランティアで担っている。

【目指すべき姿】

- 簡単に見守りができるような仕組みがほしい。地区の見守りには、防犯カメラを設置していくのも一つの方法なのではないか。
- 個人情報保護法により役所や警察からの情報の開示が難しいのはわかるが、必要な所に必要な情報は開示されるべきではないか。
- 活動が減少している中でも、集まりやサロンを行っている方もいる。できるだけ役員の負担を少なくしていき、集まりを増やしていきたい。
- これからは地域の役員にも予算を考慮していくべきではないか。

【住民主体でできること】

- 今後もイベントなどの集まりを増やしていきたいが、そこに近所の人たちをどう誘うかが課題。それでもできるだけ周りで声掛けをして集まりへの参加を促していく。

●地域活動の担い手の養成について

【困っていること】

- 団塊ジュニア世代などの若手人材が流出し、人材不足。町に若い人が少なく、過疎化が進んでいる。
- 地域の活動に興味をもってもらえず、地域のつながりがうすくなっている。世代間のつながりも少ない。
- 地域の役は男性が務めることが通例になっており、女性の参加が少ない。
- 民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会支部、宅老所などの会議等の依頼が多すぎる。役割が多すぎるので次の人にどう渡せばいいのか苦慮している。役割の減らし方がわからない。何をどこまでやればいいのか…
- 役を担う人材が固定化してしまっている。兼務も多い。上の人からやれと言われると断れず、自主性のある人が少ない。
- 各団体同士の横との繋がりがなく、話し合う場がないため、活動内容の情報が共有できず、役割が重複していてもわからず、整理ができない。
- 高齢者は多いが、長寿クラブの会員は集まらない。また、高齢者世帯からの自治会の脱退が増加している。高齢者にとってIT化への対応は難しい。
- 陶の3区（猿爪・水上・大川）合同で行事をしたくても、水上と大川は神事がある関係で一緒に行うのが難しい。また陶は交通費がかかる。

- 日吉町では、人数が少ないため学童が成立していない。母親達が一生懸命に組織を作っているが、リーダーが長く続けていけるかが課題。

【目指すべき姿】

- 役割を減らすことを目的とした会議を行い、やるべきことの合理化をはかる。
- 女性にアプローチできる方法を探る（スポーツ大会やご飯会など、楽しく交流できる機会を通じて）。
- 将来的には女性が区長・組長がしても良いのではないか。女性も複数名でなら活動がしやすくなり、加入にも繋がるのではないか。
- 将来的には市からの公的なコーディネーターの派遣、あるいは経済的な支援をしていただかないと長続きしないのではないか。例えば、民生委員児童委員を区の役員と位置付けるようにし、手当を支給するなど。
- 働く場所の確保によるまちの活性化。それによる移住者の増加。
- 手続きの簡略化。誰でも使いやすく生活がしやすいシステムが構築されるとありがたい。

【住民主体でできること】

- 地域内の団体同士で連携を図った上で、役割の分担をする。役割をただ単に廃止・縮小していくのではなく、団体同士で話し合いを重ねて整理・精査していく。
- 役員交代のローテーションを確立していく。
- 近い年代同士で交流できる機会をつくり、そこからつながりを作っていく。夫婦で参加することにより妻同士の繋がりもできるため、女性への参画を促すきっかけになる。
- 今回のような懇談会をまたできるようにする（色々な人の話を聴く。聴いてみないと何もわからない）。
- 区長会、民児協、まちづくり、社協支部とで食事等を一緒にしながらしゃべることができる機会をつくる。コロナ禍以降そういう場がなくなっているので、会議ではなく楽しみながら繋がりを作るために、各団体との交流の場を作る。